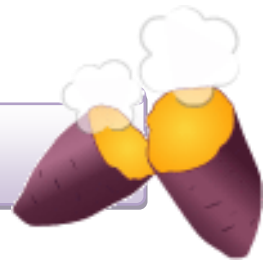


「北海道さつまいも懇話会」に入会しませんか!



1. 本会の目的

近年、道内では、地産地消を目指す動きの中でさつまいもが新規作物として注目されています。道産さつまいもには従来からの焼酎原料はもとより青果品、菓子原料としても需要がありますが、北海道での栽培事例が少なく、栽培技術が十分に確立していないことから、作付面積は少ない現状にあります。

そこで、北海道立総合研究機構ではこれまでの栽培試験に関する成果をとりまとめて、「さつまいも栽培マニュアル（2018年版）」を公開しました。http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/dounan/publication/manual/sweetpotato_manual_2018.pdf

今後、さらに北海道におけるさつまいもの生産、流通、消費の拡大を図るためには、道産さつまいもの優位性をアピールし、ユーザーである消費者、実需者など関係者間で情報を共有することが大切と考えます。本会は2011年に設立され、消費者、食品企業、市場、生産者、行政、普及、学識経験者などが幅広く連携し、自由な立場で意見交換できるネットワークを構築することを目的として活動しています。



2. 本会の事業

- (1) メーリングリストの運営
- (2) 現地検討会と情報交換会の実施

3. 役員

会 長 大道 雅之（拓殖大学北海道短期大学 教授）

事務局長 三好 智明（北海道立総合研究機構 花・野菜技術センター 研究部長）

4. 入会のお誘い

電子メールアドレスを持っていらっしゃる方はどなたでも、入会を歓迎しています。

事務局担当の長田亨（北海道立総合研究機構 花・野菜技術センター、e-mail：nagata-tooru@hro.or.jp）まで、氏名、所属とメールアドレスをお教え下さい。

教えて頂いたアドレスを登録しましたら、その旨をメールでお知らせしますので、会員の皆様に向けて自己紹介や意見、情報等を投稿して下さい（投稿の宛先：sp@ml.hro.or.jp）。

手続きは、それだけです。会費は不要です。



2020年度の活動について

(1) 皆様からのメールの例

さつまいも懇話会の皆様
●●町の●●と申します。
全量干し芋加工するためにさつまいも栽培をしているのですが、2020年産の収量が思ったより伸びませんでした。そこで通常ならどれくらいの収量とれるものなのか知りたいのでよろしければ返信お願い致します。

●●市の生産者●●です。
株当たり換算ですが、なると金時、シルクスイート、ベにあずまの3品種は 0.8kg/株、ベにはるか 0.4kg/株パープルスイートロード 0.2kg/株位でした。

マルチを今年から透明かライトグリーンマルチにしようと思っています。昨年まではダークグリーンマルチでしたが、一部透明とライトグリーンマルチを使ってみたところ初期生育が全然違ったので。初期生育が良いと、アブラムシ対策にも良いとのことでした。

(2) 現地検討会

9月2日に、コロナウイルス蔓延防止の「三密」を防ぐため、拓殖短期大学構内の圃場見学を行いました。

(3) 情報交換会

3月5日にコロナウイルス蔓延防止のため、拓殖短期大学構内でのWeb開催となりました。渡島農業改良普及センター、和寒町農業活性化センター、八紘学園から栽培などに関する情報提供がありました。また拓殖短期大学の学生さんの研究発表もありました。

あまり肩肘張った研究会ではありませんので、皆様お気軽にご参加ください。

過去の活動内容の紹介

(1) メーリングリストへの投稿

例年、100件程度の投稿が寄せられています。

(2) 現地検討会の視察先

【2012年度】(8月27日)拓殖大学北海道短期大学、花・野菜技術センターの栽培試験圃場、滝川市内の生産圃場

【2013年度】(8月22日)近畿大学バイオコックス研究所、恵庭市内の生産圃場

【2014年度】(9月1日～2日)札幌酒造厚沢部工場、函館市内の生産者圃場、道総研道南農業試験場の栽培試験圃場

【2015年度】(9月8日)サッポロさとらんど、大塚ファーム

【2016年度】(8月24日)鹿追町環境保全センター、鹿追町の生産者圃場、農研機構北海道農業研究センター芽室拠点

【2017年度】(8月28日)道総研花・野菜技術センター、滝川市こうざい農園、拓殖大学北海道短期大学

【2018年度】(8月28日)八雲町森岡氏圃場、道南農業試験場、JA函館市亀田青年部圃場、函館市下山氏圃場

【2019年度】(8月28日)ブリックハット、JAいしかり さつまいも栽培圃場、フーズアンドブレッド美唄加工施設、岩見沢市内の生産者圃場

【2020年度】（9月2日）拓殖短期大学園場

(3) 情報交換会の概要

【2011年度】（11月22日、拓殖大学北海道短期大学）北海道さつまいも懇話会を設立しました。

【2012年度】（2月7日、空知総合振興局）「先進地視察（西南暖地、関東地方、道南地域等）」
「道総研における試験状況」などについての報告がありました。

【2013年度】（2月13日、空知総合振興局）「先進地視察（作物研究所、日本いも類研究会）」
「材料利用と販売の立場」などについての報告がありました。

【2014年度】（2月18日、札幌のイタリアンレストラン「RISTRANTE TERZINA（リストランテ テルツィーナ）」）道産さつまいもを使った料理をいただきながら、勉強会をしました。

【2015年度】（2月19日、拓殖大学北海道短期大学）株川小商店の齋藤公章常務取締役より
「大学芋文化とビジネス」、お菓子や色素原料に関する情報提供などがありました。

【2016年度】（2月28日、酪農学園大学）農研機構北海道農業研究センター石黒上級研究員より
「さつまいもの生産・品種等の状況とその利用」についての情報提供、会員の皆様からの活動紹介がありました。また、展示や試食の提供のご協力も多数いただきました。

【2017年度】（2月28日、拓殖大学北海道短期大学）いも類振興会需要推進部長の中澤健雄氏より
「さつまいもの現状と今後の方向」や道南農業試験場からさつまいもの育苗方法などについて情報提供がありました。

【2018年度】（2月22日、北海道総合研究プラザ）農研機構つくば技術支援センター蔵之内利和氏、カネコ種苗（株）札幌支店 深町泰則氏から育種に関する講演がありました。また花・野菜技術センターと同南農業試験場から加工に関する情報提供がありました。またさつまいもを使ったスイーツの試食、焼酎、さつまいもから抽出した色素の展示のご協力をいただきました。

【2019年度】（2月21日、北海道総合研究プラザ）滝川市、岩見沢市、由仁町、妹背牛町、函館市、芽室町、安平町、沼田町の生産者のみなさんから、栽培や加工に関する情報提供をいただきました。